



モエワ★カムイ 45

NO.

OCT 1996

●モエワ・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。



あさひやまどうぶつえいニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ

「ぼくは動物大使」

その6 チンパンジー 2.3

特集

「鳴く虫」 4.5

飼育研究レポート

「キジ類の卵重変化」 6

動物園事情

VETニュース 7

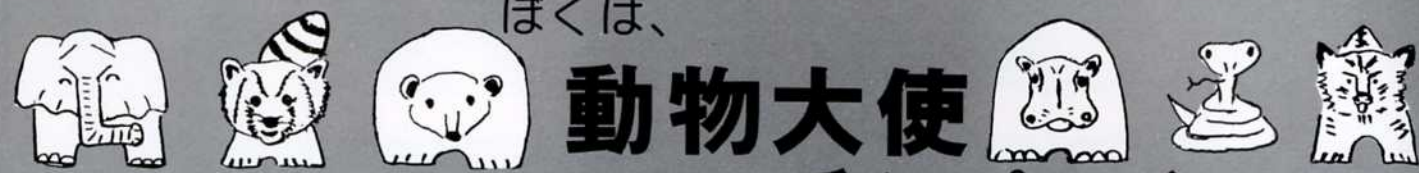
クイズ

できごと

おしらせ

編集後記 8

らんけい保育園
永澤史悠くん



ぼくは、

動物大使

その6 今や大家族 チンパンジー

チンパンジー

Pan troglodytes

西・中央アフリカに広く分布し、森林や疎開林、サバンナなどに生息している。果物が主食だが、種子や木の葉、シロアリ、自分より小さいサルの仲間なども食べることがある。

チンパンジーの食事

平成8年9月1日7頭分の1日量

リンゴ	3kg
ニンジン	2kg
ハクサイ	2kg
キャベツ	1kg
サツマイモ	5kg
バナナ	2kg
タマネギ	1kg
ピーマン	0.3kg
食パン	5枚
ヨーグルト	1個
サル用ペレット	少々
ニボシ	少々
チーズ	3個
卵	3個

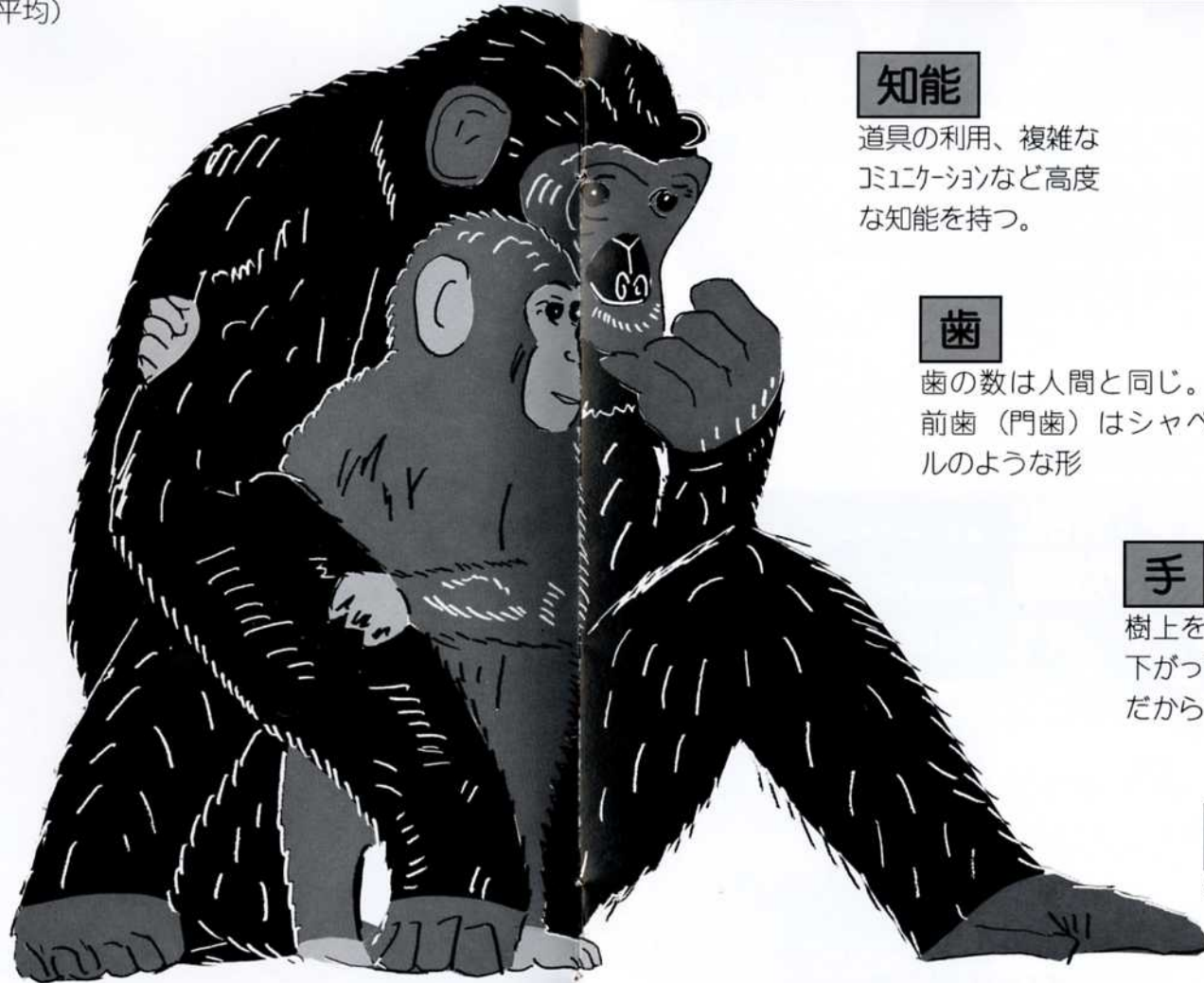
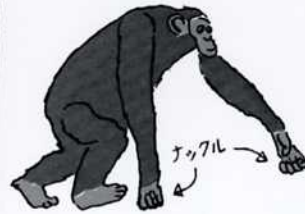


体重

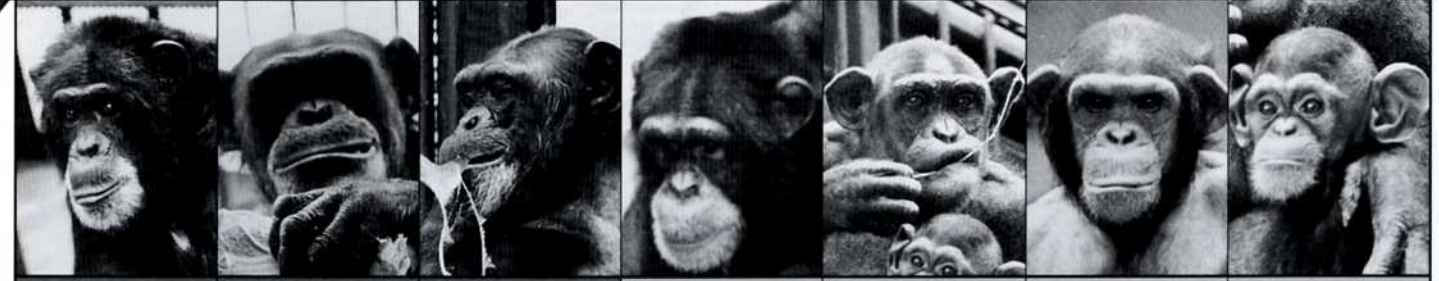
オス60kg、メス40kg
生まれたばかりの赤ちゃん1.6kg(平均)

歩き方

手をついて四つ足で歩く。手は第一関節と第二関節の間を地面につけて歩く(ナックル歩行)。



旭山チンパンジー家の家族紹介



キーボ 28才 75年入園の最年長です。	チロ 17才 仙台生まれ、少し気が弱い。	ミコ 21才 今年の7月に来た新人です。	リキ 11才 キーボの息子。第2グループのリーダー。	フルト 16才 フランクフルト生まれ。一昨年来園しました。	イブ 6才 フルトの娘。一昨年フルトと一緒に来園。	シンバ 1才 去年、キーボとフルトの間でできた子ども。
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------------	----------------------------------	------------------------------	--------------------------------

知能

道具の利用、複雑なコミュニケーションなど高度な知能を持つ。

歯

歯の数は人間と同じ。前歯(門歯)はシャベルのような形

手

樹上を移動する時は枝にぶら下がって移動する。だから手の甲が長くなった。



足

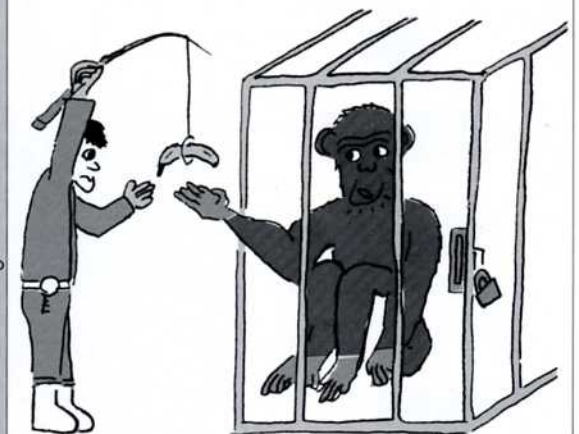
物をつかむことができる。

今度来たメスのチンパンジー

当園では2つのグループにわけ、最年長のキーボは東北美人のチロと同居。面倒みの良いリキにはドイツ生まれのフルトとその子どもたちがお世話になっている。そこに今年の7月に新しくミコというメスのチンパンジーが入園した。ここに来る前は熊本県で飼育されていた個体だが、その前は野生にいたチンパンジーである。どちらの群れに入れようかと悩んだが、年齢が少し高いということでキーボのグループに入れてみた。今ではチロより強くなりキーボとあつあつの仲になっている。

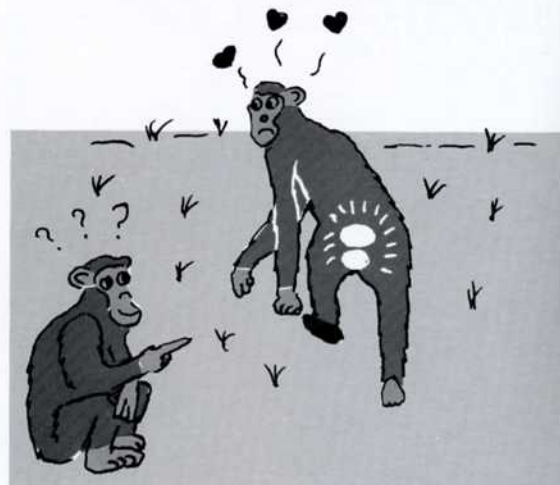
キーボの独り言

夕方、オレ様たちが寝室に入ると、飼育係はオリごしに手渡しでバナナをみんなに配ってくれる。これは、もしも病気になった時に投薬などを確実に出来るよう、普段から訓練しているそうだ。ある日の事、中に入ると新米飼育係がバナナを持っていた。少しからかってやろうと、なかなか取ってやらなかった。そしたら、いつもより少し奥にバナナを入れてきたので、そいつの指をオレ様の指で軽く弾いてやった。オレ様はほんのちょっと触っただけなのに飼育係の指の皮が剥けてしまった。なんか悪いことした気がした。しかし、人間という動物は弱いのお。



尻

白い毛があるうちは、まだ子供のしるし。メスは発情すると陰部が赤くはれる。



特集

『鳴く虫』



夜になるとTシャツでは肌寒く、耳をすますとカンタンやエンマコオロギの鳴き声が聞こえて来ます。意味もなく「秋なんだなあ」と感じます。

さて今回の特集は、「鳴く虫」です。旭川には、歌に出て来るマツムシやウマオイ、クツワムシはいませんが、それでもたくさんの鳴く虫たちがいます。

鳴く虫ってなんだ？

鳴く虫には、キリギリス類、コオロギ類、バッタ類がいます。鳴くといっても、口で息をしない彼らは、喉から声を出すわけではありません。キリギリスやコオロギは前羽をこすり合わせて音を出し、バッタは前羽と後ろ足をこすり合わせて音を出します。

今回は羽をこすり合わせて「鳴く」キリギリス、コオロギの仲間を紹介しましょう。旭川周辺には、キリギリスの仲間が6種、コオロギの仲間が5種います。

キリギリスとコオロギの仲間の違い？

キリギリスの仲間



- マッチ箱を立てた様な体型
- 左の前羽が上にかさなる
- 羽を立てないで鳴く

(例外もある)

コオロギの仲間



- マッチ箱を横にした様な体型
- 右の前羽が上にかさなる
- 羽を立てて鳴く

(例外もある)

鳴く虫の体

触覚

頭

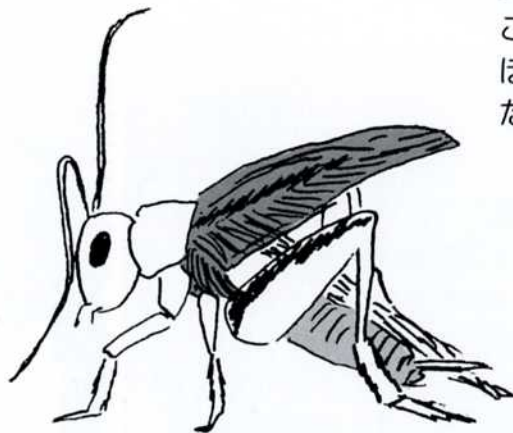
目(複眼)

あご

虫の死骸や草をばりばり食べる

前足

なんと耳は前足にある



胸

中足

後ろ足

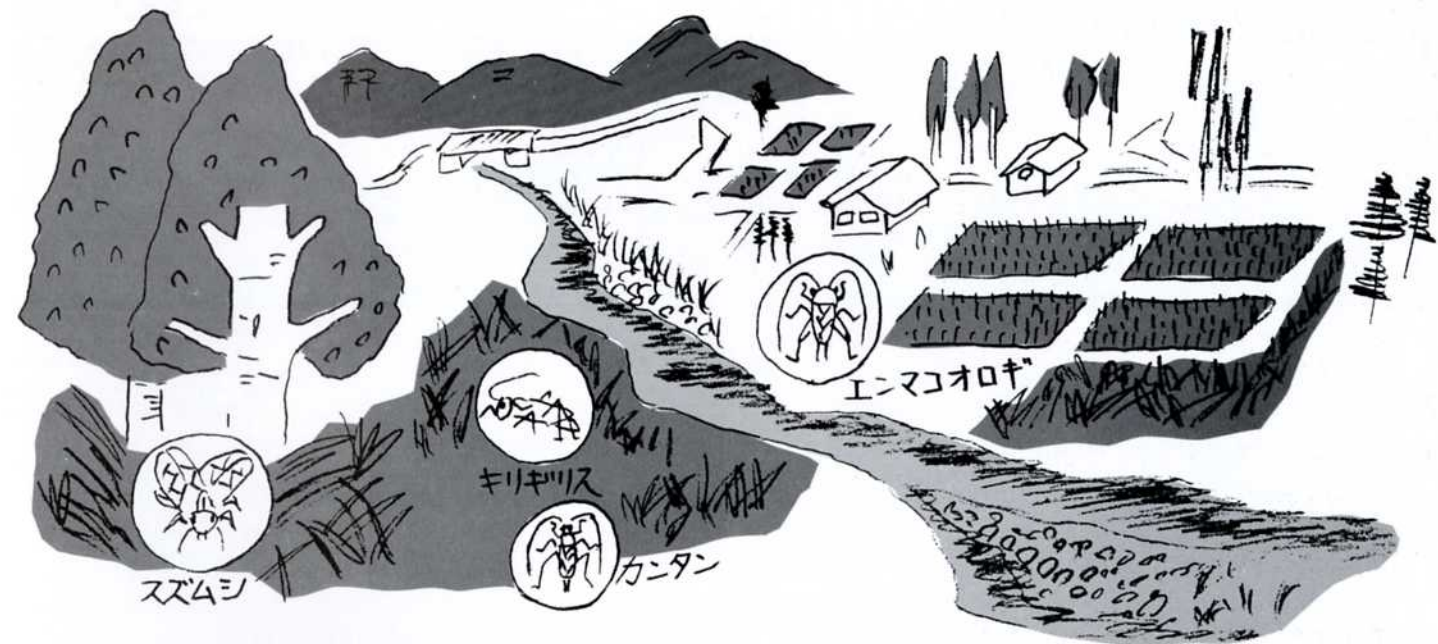
前羽

こすり合わせて鳴く、ほとんどの種がオスだけが鳴く

後羽

どんな所にすんでるの？

キリギリスの仲間は、いろいろな草が生い茂ったところや、牧草地の草のなか。コオロギの仲間は、たんぼのあぜや、草地の石の下。でもカンタンはヨモギの群生地。



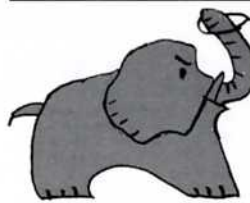
旭川の鳴き虫自己紹介(自慢の鳴き声)

キリギリスの仲間

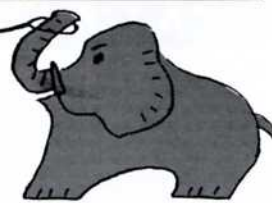
	◀ハネナガキリギリス ギー、チヨン
	◀イブキヒメギス チリ、チリ、チリ……
	◀コバネヒメギス シリ、シリ、シリ……
	◀ヒメクサキリ ジイ—— (長く伸ばす)
	◀ウスイロササキリ チリチリチリ チリチリチリ……
	◀エゾツコムシ ツーツーツーチキツ

コオロギの仲間

	◀エゾエンマコオロギ コロコロコロー
	◀カンタン リリリリリ……
	スズの仲間 ●エゾスズ ジー ジー ●ヤチスズ ジー ジー ●マダラスズ ジイーツ、ジイーツ



飼育研究レポート



キジ類の卵重変化

旭山動物園では何種類かの鳥の卵をふ卵器に入れて、人工的にふ化をさせています。しかしせっかくふ卵器に入れても途中で成育が止まったり、ふ化したヒナが弱かったりと、成功ばかりではありません。親鳥が自分で抱卵した卵ではこのような事はほとんど起こりません。卵を上手にふ化させるためには、ふ卵器の温度と湿度の適切な設定と管理が重要です。しかし温度・湿度を一定に保つことは外気温の変化等でとても難しく、そもそも種ごとの最適な設定値ははっきりしていません。産み落とされた卵は、ふ化するまでに水分の蒸発や呼吸によって重さが減ります。この減る量は、温度・湿度の影響を強く受けます。

そこで今回はキジ類の卵は正常にふ化するまでどれくらい重さが増えるのかに注目して調査しました。正常にふ化する卵重の減少率が分かれば、温度・湿度をこの減少率になるように調整すればいいこととなります。ふ卵器の設定温度・湿度はニワトリの条件としました。今回調査した鳥の卵はインドクジャク、シチメンチョウ、ホロホロチョウ、ハッカ、ハイロコクジャク、キンケイ、オナガキジ、ニホンキジの8種です。

卵重の減少率は、ふ卵器に入れるときの卵重を100%としふ化する直前に何%減ったかを求めました。インドクジャクの場合、平均で9.7%も軽くなりました。最も減らなかったのはシチメンチョウで8.4%でした。逆に最も減ったのはハイロコクジャクで13.5%も減少しました。

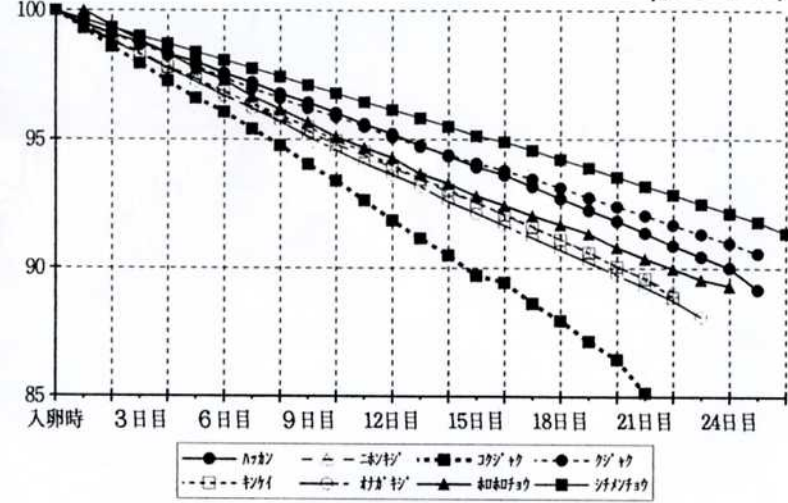
(グラフ1参照)
このことから大きな卵より小さな卵のほうがふ化するまでの減少率が高いといえます(小さい卵ほど体積に対する表面積の割合が高いので蒸発率が高い)。しかしそれぞれの種類によって正常にふ化した卵の減少率の幅に違いが見られました。

(グラフ2参照)
この幅が一番広がったのはホロホロチョウで、最も減った卵は16.4%、減らなかったものは6.9%で、その幅は9.5%です。逆に幅が狭かったのはニホンキジでわずか1%ぐらいしかありませんでした。この幅が狭い種ほどふ卵器によるふ卵は難しいものと考えられます。ふ卵器の条件をこまめに微調整して、減少率をコントロールしなければならないといえます。

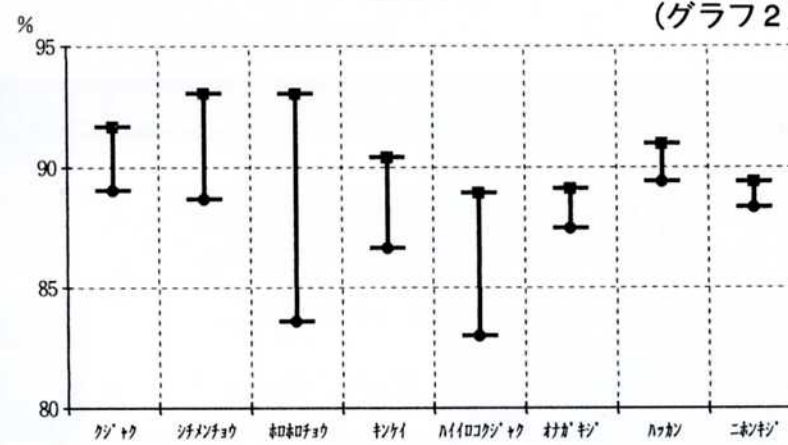
さらに、初めにふ卵器に入れる卵自体の大きさも十分検討しなければいけません。大きすぎたり、小さいすぎる卵がふ化しない種類もあります。

このような研究を通して、ふ卵器に入れた卵は、みんな無事にふ化させようと、頑張っています。

有精卵の卵重変化 (グラフ1)



嘴打前の減少率の最高最低 正常孵化のみ (グラフ2)



動物園事情



在来野生動物の保護

旭山動物園には、毎年130件くらいの野生動物が治療のため等で持ち込まれている。天然記念物であるオジロワシからスズメのヒナまで様々な動物が様々な理由で持ち込まれるのだ。

先日、ミンクを持ち込んできた市民がいた。次は、その時のやりとりである。

「ミンクは、北米産の帰化動物ですので、動物園では保護できません」

「同じ野生動物なのに、なぜ動物園ではミンクを保護しないのですか。かわいそうじゃないの」

「動物園では、北海道の野生動物を保護したいと考えています。外国産のミンクやライグマは人間が持ち込んだ動物ですし、将来、北海道の野生動物に脅威となるかもしれない動物です。また、地球規模で多様な生態系を保つていくためには、人為的な動物相の攪乱は避けなければならないのです」

「それじゃ、このミンクはどうするのですか」

「できれば処分していただきたいのですが」

「殺せて言うのですか。なんて酷い人なの。私が飼うわ」

「お飼いにされるのであれば、最後まで可愛がって下さいね」

「あなたに言われる筋合いはないわ。」バタン。

野生動物の保護と一口に言っても、保護すべきは何なのかを明確にしておかなければならないと思う。旭山動物園では在来の野生動物を保護します。ただし、生態系の中でできごと、例えばキツネに捕らえられたユキウサギを助けるようなことは、我々がしてはならないことだと思います。



動物病院 VET ニュース

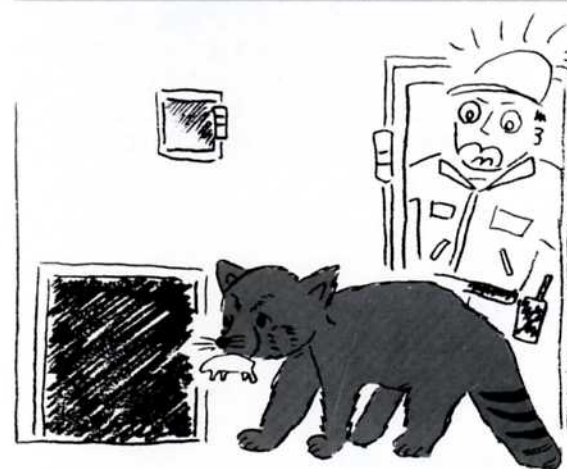


初めてのお産

動物園に足を運んで、レッサーパンダを見た方は、彼らの姿が深く印象に残っているのではないのでしょうか？ 普段は木の上でグテッと寝ていることが多いのですが、あの可愛い顔、しぐさは見ているだけで顔がほころびてしまいます。

当園では、尻尾の短いオスのヤンヤン(当園に来る以前に切れてしまった)とメスのチャオチャオの2頭を飼育しています。彼らが来てから早や3年になるのですが、6月27日ついに待望の赤ちゃんが産まれました。ところが、数日後にこの赤ちゃんの死亡が確認されたのです。初産のためか、お母さんは上手に子育てができなかったようです。

ただし、これには飼育する我々にも責任がありました。と言うのは、過去3年出産しなかった上に、彼らは普段から気まぐれでマイペースな性格ですので、妊娠の兆候をとらえにくかったのです。まったく予期できずに、不意打ちの出産でした。朝いつものように寝室から放飼場に出すとそのままポロッと産んでしまいました。さすがにお母さんも慌てたらしく、しばらく赤ちゃんをくわえてうろうろしていました。すぐに寝室に入れたものの、落ち着かなかったのか、授乳しなかったようです。妊娠に気付いて外に出さなければよかったと悔やまれます。



しかしヤンヤンとチャオチャオが赤ちゃんを産んでくれるペアであることは分かりました。彼らは毎年ほぼ同じ時期に出産する動物ですから、来年こそはなんとしても子育てを成功させてやりたいと思います。来年は可愛い赤ちゃんが見れますよ！きっと。

クイズ



次の写真はキンメフクロウです。
抜けている目の部分は次のどれでしょう。

①



②



③



正解者の中から抽選で3名の方に旭山動物園特製エゾシカの角キーホルダーが当たります。

応募方法はハガキに答と住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、旭山動物園モユク・カムイ係までお送り下さい。

応募×切 1996年11月30日

できごと

- 4月～6月 ニホンザル5頭出産
- 5月～6月 ワピチ2頭出産
- 6月 エゾシカ2頭出産
- 6月9日 クロエリハクチョウ1羽孵化
- 6月26日 コブハクチョウ5羽孵化
- 7月1日 インドガン1羽孵化
- 7月10日 ライオン(メス)倒れる
- 8月 キレンジャク孵化
- 8月13日 ボニー「クリコ」老衰で死亡
- 8月21日 カピバラ6頭出産
- 9月5日 シロテテナガザル出産

お知らせ

◎モユク・カムイの申し込み方法

1年分の送料として190円切手4枚を同封して、旭川市旭山動物園モユク・カムイ係までお申し込みください。



飼育動物数

(10月30日現在)

哺乳類	48種	160点
鳥類	101種	522点
爬虫類	10種	33点
合計	159種	715点

編集後記

とても季刊誌とは言えない発行状態で、たいへん申し訳ございません。今年度第2号なのに、外を見ればナナカマドの葉が色づき始めています。もっとも今年は夏は来たの?と思うくらいに夏らしい夏がなかったのも、モユク・カムイの夏号も出すタイミングを失ったようです(いいわけ)!?

ところで、45号の表紙はなかなか良いでしょうか?子供の感性はなんてすばらしいんだ、と感動してしまいます。心に感じたフクロウの姿がそのまま絵になったようです。

この号が出るとすぐに閉園・今シーズンが終了します。もう冬支度です。今年も動物園に足を運んでいただけたでしょうか?来年度は開園30周年です。新しいふれ合い動物舎も完成します。期待しててください。

モユク・カムイ No.45 平成8年10月31日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
 発行 小菅正夫
 編集委員 坂東元・松島守・中田真一・辻松淳二
 印刷 谷川印刷株式会社 〒070 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653